

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」

マタイ福音書7章12節

私はこの聖句を、「自分がされて嬉しいと感じること、してもらいたいと願うことを、まず自らが人に対して行いなさい。」という意味だと、とらえました。

「自分がされて嬉しいことを人にする」「自分がされて嫌なことは人にしないこと」という言葉を、私たちは小さいころから何度も聞き、繰り返し教えられてきたと思います。しかし、実際にそれを行動に移すことは簡単そうにみえても、実はとても難しいことだと私は思います。

例えば、電車やバスで席を譲ろうとすると断られることもあります。席を譲った人は、良かれと思ってしたことでも、相手にとっては迷惑だったり、余計なお世話だったりすることがあります。このように、自分にとって嬉しいと感じることと、相手がしてほしいと望んでいることは、必ずしも一致するとは限らず、たとえ自分は良かれと思ってやったことでも、相手にはそう受け取れないこともあります。

だからこそ、本当に大切なのは、「相手の立場になって考える」ことです。自分の気持ちだけで行動するのではなく、相手の視点や状況を理解しようと努め、思いやりを持って接していきたいです。そうした姿勢が、相手とのよりよい関係を作り、信頼を築いていく鍵になるのではないのでしょうか。

また、「人にしてもらいたいことを人にする」という姿勢は、単なる自己満足や見返りを求める行為ではなく、人に与えることによって、その善意が巡り巡って自分に返ってくることもあるのだと思います。

来週の土曜日には、学校行事の一大イベントでもある聖霊祭があります。聖霊祭を楽しいものにしたいという思いがあればこそ、その思いを形にするためにも、準備の段階から「自分がされて嬉しいこと」を意識して行動し、思い出となる聖霊祭を作り上げていきましょう。

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」

マタイ福音書7章12節

3年C組 高橋 南月